

卒業生からの手紙

vol. 9

あのころ、先生方にいただいた
応援の言葉が今に繋がっています

高校OG 永松愛子さん（宇宙航空研究開発機構 主任開発員）

有人宇宙開発の仕事に
取り組んでいます

私の成長を見守って
くれた筑紫女学園

高 校在学時から宇宙開
発に携わるのが夢でし
た。現在は、在学時から入
りたいと言いつづけていた宇宙航
空研究開発機構（JAXA）
で、日米露・欧・カナダの15カ
国が参加する国際宇宙ス
テーション（ISS）を使った有
人宇宙開発に取り組んでい
ます。海外の宇宙機関とも協
力して、ISS船内のエリアモ
ニタリング環境計測や日本人
宇宙飛行士の個人被ばく線
量計測を担当しています。宇
宙飛行士をはじめ、研究者、
技術運用者、国際調整や安
全評価の担当者など、様々な
分野のエキスパートが集って
成果を出すISSの仕事に、
大変やりがいを感じています。

筑 紫女学園には3回お
世話になりました。1
度目は高等学校の生徒とし
て、2度目は大学4年生の
教育実習生として、そして
社会人になってからは、追夢
講座の講師として「宇宙授
業」を担当させていただきま
した。生徒から社会人まで、
筑紫女学園はずっと私の成
長を見守り、大事な人生の
節目に「大丈夫、前に進んで
ごらん」と、背中を押してく
ださる大切な存在です。

私は中学時代の先輩の勧めで、筑紫女学園高等学校に入学しました。在学中は、多くの先生方が親身になって勉強、生活、日々の思いに向き合ってくださいました。

放課後に、将来の夢を先生や友人とずっと話していたことを懐かしく思い出します。1年生の担任でいらした中尾先生（現在副校長先生）からは、英語を話すだけではなくコミュニケーションを取ることを。数学・生物学の楽しさは、充実した毎日の授業から。化学や物理の楽しさは、当時部長も務めた化学部から学びました。この頃に話していたこと、取り組んだこと、先生方にいただいた応援の言葉すべてが現在の宇宙開発の業務に繋がっています。

航空宇宙開発分野は、まだまだ女性が活躍できる伸び代がある分野です。筑紫

永松さんの
思い出の
1枚

当時、部長を務めた化学部のメンバーと
（上段中央が永松さん）



女学園から幅広い分野で、国際的なリーダーシップを取る人材がますます活躍されるように応援しています。



国際宇宙ステーションの運用業務。

【Profile】

ながまつ・あいこ（新姓：伊藤）

●1993年（平成5年）高等学校卒。奈良先端科学技術大学院を修了後、平成11年特殊法人宇宙開発事業団NASDA（JAXAの前身）入社。国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」を運用する有人宇宙ミッション本部で、ライフサイエンス実験と技術開発に携わる。主任開発員。東京大学大学院、総合研究大学院大学を経て工学博士。専門は、宇宙放射線計測と遺伝子工学。平成20年女性技術者に贈る奨励賞「都河賞」受賞、平成24年JAXA理事長表彰、平成25年アジア放射線研究連合若手研究者賞受賞。小学生2児の母。

